

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	広島修道大学
設置者名	学校法人 修道学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
商学部	商学科	夜・通信	8	24	0	32	13		
	経営学科	夜・通信			0	32	13		
人文学部	人間関係学科	夜・通信		14		0	22	13	
	英語英文学科	夜・通信				0	22	13	
	教育学科	夜・通信				0	22	13	
法学部	法律学科	夜・通信		10		6	24	13	
	国際政治学科	夜・通信				2	20	13	
経済科学部	現代経済学科	夜・通信		12		4	24	13	
	経済情報学科	夜・通信				0	20	13	
人間環境学部	人間環境学科	夜・通信			0	14	22	13	
健康科学部	心理学科	夜・通信		2		6	16	13	
	健康栄養学科	夜・通信				8	18	13	
国際コミュニティ学部	国際政治学科	夜・通信		10		2	20	13	
	地域行政学科	夜・通信				10	28	13	
(備考) 人文学部人間関係学科心理学専攻は2017年度より学生募集停止 健康科学部心理学科・健康栄養学科は2017年度より開設 法学部国際政治学科は2018年度より学生募集停止 国際コミュニティ学部国際政治学科・地域行政学科は2018年度より開設									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

実務経験のある教員等による授業科目の一覧はHPに一覧表を掲載 Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/teaching/index.html (授業計画(シラバス)内)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	広島修道大学
設置者名	学校法人 修道学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園 Web サイト上で公表 http://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/Officer_list.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	広島県議会議員	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	法人業務の総理
非常勤	現職なし (前職：(株)もみじ銀行頭取)	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(株)福屋代表取締役会長	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(株)サクラオブルワリーアンド ディスティラリー代表取締役 会長	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(株)サイエンス代表取締役会長	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(株)中国新聞社特別顧問	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	広島電鉄(株)代表取締役社長	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	オタフクホールディングス(株) 代表取締役社長	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	法人通常業務の遂 行
非常勤	(株)中電工代表取締役社長	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	現職なし (前職：(株)ヨンドシーホー ルディングス取締役相談役)	2021. 6. 21 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	広島ガス(株)相談役名誉会長	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	法人通常業務の遂 行
非常勤	広島信用金庫特別顧問	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	法人通常業務の遂 行

非常勤	(株)広重代表取締役社長	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(学)上野学園理事長	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(株)MAX 代表取締役専務	2022. 4. 1 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(株)はんべえ代表取締役社長	2022. 5. 30 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(有)アルファトップ代表取締役	2020. 5. 26 ～2023. 5. 25	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	広島修道大学
設置者名	学校法人 修道学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では、開講する全ての科目について、担当教員にシラバスの作成を義務付けている。シラバスの作成方法や記載する事項を示した文書に、記載見本を付けて、担当教員に配付している。</p> <p>記載必須事項は、授業題目、授業の概要、学修の到達目標、授業計画(授業回数分すべてを記載)、授業外学習の課題、履修上の注意事項、成績評価の方法・基準、オフィスアワー及び質問・相談への対応である。また、テキストや参考文献は任意記載事項であるが、少なくともどちらか一方を記載するようにしている。実務経験のある教員による授業科目については、授業の概要において授業に関連する実務経験を記載している。</p> <p>なお、シラバスの記載内容のチェックを各学部等において実施している。シラバスはWebサイト上で公表しており、次年度のシラバスは毎年3月下旬の公表である。</p>	
授業計画書の公表方法	Webサイト上で公表 http://syllabus.shudo-u.ac.jp/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修意欲は、出席を中心に把握している。大・中教室にはICカードリーダーを設置し出席調査を行っており、語学など少人数の科目においては、担当教員が直接出席を管理している。</p> <p>学修の評価は、AA、A、B、C、Dの5段階で行い、Dを不合格とすることを学則で定めている。評価の基準は、100～90点：AA、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：Dである。</p> <p>毎学期の終了後に1週間程度の期間を設けて定期試験を実施し、その結果に基づいた成績評価及び単位認定を実施している。定期試験以外の成績評価方法として、レポート、課題提出、授業での取り組みなどがあり、シラバスに記載している成績評価方法に基づき単位認定を実施している。</p> <p>全ての科目において成績評価方法をシラバスに明記し、学生に周知している。なお、単位認定方法や成績評価基準については、成績発表ガイダンスでも学生に説明している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価において、客観的指標としてG P Aを設定している。 G P Aは素点(評価点)をもとに次のように計算している。</p> $G P = (\text{評価点}-55) / 10 \text{ (ただし、} G P < 0.5 \text{は} G P = 0.0 \text{とする)}$ $G P A = (\text{履修科目の} G P \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修科目単位数の総和}$ <p>なお、学生が自分の成績状況やG P Aの点数をいつでも確認できる手段として、Webシステム(学習カルテ)を構築し、学びの点検ツールとしてG P Aを取り入れている。 また、成績の分布状況については、教授会等で資料を配布し把握している。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>Web サイト上で公表 (PDF データの 8~9 枚目) https://www.shudo-u.ac.jp/lifesupport/htpcot0000000csr-att/htpcot00000050ab.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 大学全体の学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) を下記のとおり定めている。</p> <p>広島修道大学は、学生一人ひとりが「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の 3 点を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識と技能 講義、ゼミナールなどでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、各学問分野の知識を収集・整理・理解し、分析・表現することができるようになること。 2. 思考力・判断力・表現力 修得した知識と技能をもって、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。 3. 多様な人々との「協創」 グローバル化及び人口減少が進んでいくわが国において、主体性をもって多様な人々と「協力して価値を創造」(「協創」) し、学びあう態度を養うこと。 <p>この方針のもと、学部・学科ごとに特色を反映した学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) を定めている。学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)、教育研究上の目的や特色・ねらい、卒業要件について『学修の手引き』に記載し周知を図っている。 卒業認定にあたっては、卒業の要件を学則及び学部ごとの履修細則で定め、修得単位及び在学期間に基づき、教授会で卒業判定を実施し卒業認定者を発表している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/univ.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	広島修道大学
設置者名	学校法人 修道学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/financial.html
収支計算書又は損益計算書	Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/financial.html
財産目録	Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/financial.html
事業報告書	Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/index.html
監事による監査報告(書)	Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2022年度広島修道大学事業計画 対象年度:2022年度)
公表方法:Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/jigyokeikaku/planreport.html
中長期計画(名称:中期事業計画(2020年度-2024年度)対象年度:2020年度~2024年度)
公表方法:Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/jigyokeikaku/planreport.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/index.html https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/jigyokeikaku/evaluation.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/jigyokeikaku/evaluation.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 商学部商学科
教育研究上の目的 (公表方法: Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html)
(概要) 商学科は、商学について理論的分野と実務的分野の教育研究を行い、地域社会及び国際社会に貢献できる専門的知識と高度の教養を備え、かつ実社会で活躍できる個性的で自主的・自律的、そして自由闊達な人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/cmmrc.html)
(概要) 商学科は、学生ひとりひとりが「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の 3 点を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。 1. 知識・技能 講義、ゼミナール、さらに自学自習により、読む・聴く・書く・話すことの反復をおおして、商学、経営学の知識を獲得・整理し、理解・分析・表現することができ、考え抜くことができるようになること。 2. 課題の発見と解決 修得した知識と技能をもって、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。 3. 主体性と協働・協創 商学に関する諸領域において、各人が主体性をもって、多様な人々と協働・協創して学び合う態度を養うこと。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/cmmrc.html)
(概要) 商学科は、学生一人ひとりが円滑に大学での学修を開始し、学士課程をとおして深い学識を身につけ、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の 3 点を教育課程の編成方針として明示します。 1. 基礎から発展へ 学士課程教育に必要な基礎的な知識や技能を身につけるために、初年次教育科目を置きます。高度な知識や技能を習得するために、商学科の主専攻科目を体系的に開設し、主体的な学修を促し情報化やグローバル化の進展にも対応した教育プログラムを設けます。 2. 視野の拡大 豊かな人間性を培うために全学共通教育科目を開設し、他の学部・学科・分野の主専攻科目を体系的に学ぶことのできる副専攻制度を設けます。 3. 経験の拡充 実社会・地域社会と連携し、主体性をもって多様な人々との協創を学ぶために、課題解決型実習科目・キャリア教育科目を設け、多様な価値観や異文化を理解するために国際教育科目及び留学制度の充実を図ります。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法: Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/cmmrc.html>)

(概要)

1. 求める学生像

商学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、世界、日本および地域社会に関心を持つこと、商学に関心を持つこと、スポーツ・文化活動・ボランティア活動に取り組むこと、多様な人々と協創して課題を解決しようとするのを重視します。商学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における国語・英語の教科に関する知識・技能を有する人。商学科の専門分野を学ぶために、社会に対する関心・基礎知識、学校等で修得すべき基本的な知識・教養を持っている人。

(2) 思考力・判断力・表現力

商学に関わる問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性をもって取り組む態度を有する人。

(3) 主体性等

多様な価値観を持つ他者に対する包容力を備え、主体性を持って共感的な人間関係を創造しながら、同時に自らの意図を明確に表明して相互理解を図る能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学修には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。英語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り英語力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、社会に対する興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

2. 入学試験制度と評価

商学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。一般・共通テスト併用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表

現力に重点を置いて評価・判定します。

(4)総合型選抜

商学科入学を強く希望し、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、商学科で学ぶことの意義についてしっかりとした興味・関心を持っている生徒を選抜するために、個別学力検査として小論文（資料小論文）、面接、出願書類によって、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。個別学力検査では、学力の3要素のうち知識・技能、思考力・判断力・表現力を見るために小論文（資料小論文）を出題します。面接では自己アピール、志望理由、高校生活などを含めてコミュニケーション能力を見ることで、学力の3要素全てを評価します。出願書類では、学力の3要素を、調査書、志望理由書、活動報告書によって評価します。

総合型選抜〔活動実績重視方式〕では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置いて評価・判定します。

総合型選抜〔小論文重視方式〕では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（公募）

学校長から推薦され、商学科入学を強く希望する学修意欲の高い生徒を選抜すべく、一定の評定平均値を条件に、所有する資格・検定試験等の成績・面接・出願書類・推薦書・調査書等にもとづいて多面的・総合的に評価します。英語方式では、英語の個別学力検査で知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価します。集団面接、調査書、志望理由書では、学力の3要素を全て評価します。指定資格方式、英語資格方式では、資格・検定等の書類、志望理由書、調査書、個別面接によって学力の3要素を全て評価します。

学校推薦型選抜（公募）では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（指定校）

商学科への進学実績をともなう高等学校等を対象に、学校長が推薦し商学科入学を強く希望する生徒を選抜すべく、一定の評定平均値を条件に、面接・出願書類・推薦書・調査書等にもとづいて学力の3要素を多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てに同等の比重を置いて評価・判定します。

(7)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書にもとづいて商学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて商学科で学修することの意義を理解し、学修意欲があることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てに同等の比重を置いて評価・判定します。

(8)帰国生選抜

総合型選抜〔活動実績重視方式〕と同じ方式で評価します。

帰国生選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置いて評価・判定します。

(9)外国人留学生選抜

外国人留学生選抜では、入学後の学修に必要な基礎学力を有している外国人留学生を選抜し、小論文、日本留学試験（日本語・総合科目）の成績、面接、出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(10) 編入学試験・学士入学試験

編入学試験、学士入学試験では、主に3年次からの修学に必要な学力を有する者を選抜すべく、英語・小論文・面接・出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

3. 商学科の教育を通じて養う能力

商学科の入学者には、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じてディプロマ・ポリシーで定める①知識・技能、②課題の発見と解決（思考力・判断力・表現力を持つようになること）、③主体性と協働・協創（主体性を持って、多様な人々と協働・協創して学び合う態度）を養い、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」を育成します。

学部等名 商学部経営学科

教育研究上の目的

（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html>）

（概要）

経営学科は、経営と会計について理論的分野と実務的分野の教育研究を行い、地域社会及び国際社会に貢献できる専門的知識と高度の教養を備え、かつ経営・会計的能力をもった個性的で自主的・自律的、そして自由闊達な人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/administration.html>）

（概要）

経営学科は、学生ひとりひとりが「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の3点を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識・技能

講義、ゼミナール、さらに自学自習により、読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、経営学の知識を獲得・整理し、理解・分析・表現することができ、考え抜くことができるようになること。

2. 課題の発見と解決

修得した知識と技能をもって、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。

3. 主体性と協働・協創

経営学に関する諸領域において、各人が主体性をもって、多様な人々と協働・協創して学び合う態度を養うこと。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/administration.html>）

（概要）

経営学科は、学生一人ひとりが円滑に大学での学修を開始し、学士課程をとおして深い学識を身につけ、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の3点を教育課程の編成方針として明示します。

1. 基礎から発展へ

学士課程教育に必要な基礎的な知識や技能を身につけるために、初年次教育科目を置きます。高度な知識や技能を習得するために、経営学科の主専攻科目を体系的に開設し、主体的な学修を促し情報化やグローバル化の進展にも対応した教育プログラムを設けます。

2. 視野の拡大

豊かな人間性を培うために全学共通教育科目を開設し、他の学部・学科・分野の主専攻科目を体系的に学ぶことのできる副専攻制度を設けます。

3. 経験の拡充

実社会・地域社会と連携し、主体性をもって多様な人々との協創を学ぶために、課題解決型実習科目・キャリア教育科目を設け、多様な価値観や異文化を理解するために国際教育科目及び留学制度の充実を図ります。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/administration.html>

(概要)

1. 求める学生像

経営学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、世界、日本および地域社会に関心を持つこと、経営学に関心を持つこと、スポーツ・文化活動・ボランティア活動に取り組むこと、多様な人々と協創して課題を解決しようとするを重視します。経営学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における国語・英語の教科に関する知識・技能を有する人。経営学科の専門分野を学ぶために、社会に対する関心・基礎知識、学校等で修得すべき基本的な知識・教養を持っている人。

(2) 思考力・判断力・表現力

経営学に関わる問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性をもって取り組む態度を有する人。

(3) 主体性等

多様な価値観を持つ他者に対する包容力を備え、主体性を持って共感的な人間関係を創造しながら、同時に自らの意図を明確に表明して相互理解を図る能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学修には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。英語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り英語力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、社会に対する興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

2. 入学試験制度と評価

経営学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調

査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4)総合型選抜

経営学科入学を強く希望し、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、経営学科で学ぶことの意義についてしっかりと興味・関心を持っている生徒を選抜するために、個別学力検査として小論文（資料小論文）、面接、出願書類によって、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。個別学力検査では、学力の3要素のうち知識・技能、思考力・判断力・表現力を見るために小論文（資料小論文）を出題します。面接では自己アピール、志望理由、高校生活などを含めてコミュニケーション能力を見ることで、学力の3要素全てを評価します。出願書類では、学力の3要素を、調査書、志望理由書、活動報告書によって評価します。

総合型選抜〔活動実績重視方式〕では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置いて評価・判定します。

総合型選抜〔小論文重視方式〕では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（公募）

学校長から推薦され、経営学科入学を強く希望する学修意欲の高い生徒を選抜すべく、一定の評定平均値を条件に、所有する資格・検定試験等の成績・面接・出願書類・推薦書・調査書等にもとづいて多面的・総合的に評価します。英語方式では、英語の個別学力検査で知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価します。集団面接、調査書、志望理由書では、学力の3要素を全て評価します。指定資格方式、英語資格方式では、資格・検定等の書類、志望理由書、調査書、個別面接によって学力の3要素を全て評価します。

学校推薦型選抜（公募）では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（指定校）

経営学科への進学実績をとまなう高等学校等を対象に、学校長が推薦し経営学科入学を強く希望する生徒を選抜すべく、一定の評定平均値を条件に、面接・出願書類・推薦書・調査書等にもとづいて学力の3要素を多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てに同等の比重を置いて評価・判定します。

(7)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書にもとづいて経営学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて経営学科で学修することの意義を理解し、学修意欲があることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てに同等の比重を置いて評価・判定します。

(8)帰国生選抜

総合型選抜〔活動実績重視方式〕と同じ方式で評価します。

帰国生選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置いて評価・判定します。

(9)外国人留学生選抜

外国人留学生選抜では、入学後の学修に必要な基礎学力を有している外国人留学生を選抜し、小論文、日本留学試験（日本語・総合科目）の成績、面接、出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(10)編入学試験・学士入学試験

編入学試験、学士入学試験では、主に3年次からの修学に必要な学力を有する者を選抜すべく、英語・小論文・面接・出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

3. 経営学科の教育を通じて養う能力

経営学科の入学者には、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じてディプロマ・ポリシーで定める①知識・技能、②課題の発見と解決（思考力・判断力・表現力を持つようになること）、③主体性と協働・協創（主体性を持って、多様な人々と協働・協創して学び合う態度）を養い、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」を育成します。

学部等名 人文学部人間関係学科社会学専攻

教育研究上の目的

（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html>）

（概要）

人間関係学科社会学専攻は、「集団としての人間」の営為を理解するための社会学的な方法及び理論に関する教育を行い、人間社会の未来を切り開く知識と実践的応用力を備えた人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/sociology.html>）

（概要）

人間関係学科社会学専攻は、次の3つの能力・態度を修得した者に学位を授与します。

1. 知識と技能

社会学の知識に基づく視角・方法・理論の成り立ちと現代的展開を自ら学び考えることによって、実社会における現象や問題・課題について、社会学的に理解・分析し、自身の考えを表現できるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した社会学的知識に基づく視角・方法・理論をもって、自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を社会的に表現するために必要な社会学的思考力・判断力・コミュニケーション能力などを有するようになること。

3. 多様な人々との協創

激しく変動していく現代社会において、自ら身につけた社会学的知識を多様な科学や学問に照らしつつ、主体性を持って多様な人々と共創して学びあう態度を養うこと。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/sociology.html>）

(概要)

人間関係学科社会学専攻は、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラム・ポリシーを以下のようにします。

1. 基礎から発展へ

社会学の方法・理論の成り立ちと現代的展開に関する基礎的知識を体系的に教授する科目を、主専攻科目の人間関係学科科目、社会学専攻科目に配置します。

2. 視野の拡大

広い視野を有する豊かな人間性を培うために、多角的な社会的視角から実社会を理解するための社会的視角・方法・理論を教授する多様な科目を人間関係学科科目、社会学専攻科目に配置します。

3. 経験の拡充

実社会で主体性を持って多様な人々との共創を学ぶために、社会学専攻科目に専門講義科目（応用）、専門特殊演習科目を配置し、留学やボランティア活動などの経験を社会学的方法・理論で理解・表現できる能力を養います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/sociology.html>

(概要)

1. 求める学生像

人間関係学科社会学専攻は、高等学校卒業程度の学力、すなわち入学後に学士課程教育を受けるに必要な学力を有し、本学で学ぶ次のような人を広く国内外から受け入れます。具体的には、(1)社会における諸現象・諸問題に関心があり、自ら調査し、考えて、他者とコミュニケーションすることによって学ぼうとする人、(2)豊かな人間性を培うために、広い視野を有し、多角的な社会的視角から実社会を理解しようと努める人、(3)社会学の視角・方法・理論を修得しようと努める人、(4)将来に関して目標を持ち、自己の人生を切り開くライフ・デザイン能力を身につけようとする人です。

人間関係学科社会学専攻が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1)知識・技能

高等学校における英語・国語・社会科・数学などの教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、社会の構造や仕組、社会に生きる人々の意識や価値観を理解し、社会における現象や問題・課題について理解・分析し、自身の考えを表現し、他者と議論する際に基礎となる能力を有する人。

(2)思考力・判断力・表現力

自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を社会的に表現するために必要な社会的思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力を身につけるために主体性をもって取り組む態度を有する人。

(3)主体性等

激しく変動していく現代社会において、多様な価値観を持つ他者に対する包容力を備え、主体性を持って多様な人々と学びあう態度と、相互理解を図る能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、英語と国語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り基礎学力の向上に努めてください。基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

2. 入学試験制度と評価

人間関係学科社会学専攻は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度に

おける評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

人間関係学科社会学専攻への入学を強く希望し、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有している学生を、主として個別学力検査に基づいて、面接、自己申告書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して選抜します。さらに、面接にもとづいて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性等」を評価します。

総合型選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（公募）

人間関係学科社会学専攻での学修に意欲を持つ者で、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有していると高等学校長などから推薦された者から、主として個別学力検査と面接にもとづいて、自己申告書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して学生を選抜します。個別学力検査では、英語を含めた資料読解力・理解力にもとづいた資料小論文方式を実施します。

学校推薦型選抜（公募）では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜（指定校）

人間関係学科社会学専攻への入学を強く希望し、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有していると高等学校長などから推薦された者から、主として面接に基づいて、志望理由書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して、学生を選抜します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の 3 要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書にもとづいて人間関係学科社会学専攻で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の 3 要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて人間関係学科社会学専攻で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 社会人選抜

社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有している学生を、個別学力検査にもとづいて、面接、自己申告書、調査書の内容、社会人としての活動・経験などを加味して選抜します。個別学力検査では、英語を含めた資料読解力・理解力にもとづいた資料小論文方式を実施します。

(9) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(10) 外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(11) 編入学試験・学士入学試験

個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接によって主体性等を評価した上で、個別学力検査結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 人間関係学科社会学専攻の教育を通じて養う能力

人間関係学科社会学専攻の教育を通じて養う能力は、以下のような能力です。

(1) 社会学の知識にもとづく視角・方法・理論の成り立ちと現代的展開を自ら学び考えることによって、実社会における現象や問題・課題について、社会的に理解・分析し、自身の考えを表現できる能力。

(2) 修得した社会的知識に基づく視角・方法・理論をもって、自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を社会的に表現するために必要な社会的思考力・判断力・コミュニケーション能力。

(3) 激しく変動していく現代社会において、自ら身につけた社会的知識を多様な科学や学問に照らしつつ、主体性を持って多様な人々と学びあう能力。

(4) 国際化を進める社会で活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけ、自らの課題とテーマを主体性をもって学問的に追求する能力。

学部等名 人文学部教育学科

教育研究上の目的

(公表方法：Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html>

(概要)

教育学科は、「人間の発達と形成」に関して誕生・成熟・死に至る時間的連なりと、家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解する学際的・総合的視点からの教育を行い、現代の教育と人間形成に関する諸問題に対応した教育観と教育実践力を備えた人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/education.html>

<p>(概要)</p> <p>教育学科は、学生一人ひとりが「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるように、以下の3点をディプロマ・ポリシーとして定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識と技能 教育学及び教育実践に関する確かな知識と、得意とする専攻した分野の専門的知識を修得すること。教育活動に取り組むための十分な技能を身につけること。 2. 思考力・判断力・表現力 教育現場で生じているさまざまな課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができるようになること。 3. 多様な人々との協創 教育的視点から学校・家庭・地域社会と連携・協働することによって、グローバル時代における多様な課題の解決を図ることができるようになること。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/education.html)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎から発展 初年次から卒業年次まで少人数教育を実施し、「人間の発達と形成」に関する教育学的リテラシーの形成を図ります。誕生から成熟と死に至る時間的連なりと家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解する視点から、主専攻科目を段階的に開設します。また、学士課程における学修成果の集大成として卒業研究を必修とします。 2. 視野の拡大 「人間の発達と形成」に関して、誕生から成熟と死に至る時間的連なりと家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解できるよう、学際的・総合的視点から主専攻科目を開設します。 3. 経験の拡充 「人間の発達と形成」に関する生きた学びの機会として、地域社会における多様な教育実践の機会を提供します。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/education.html)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 求める学生像 教育学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。教育学とは、ある社会・文化における人間の生成・発達と学習の過程に意図的に働きかける教育という営みを対象とする学問です。そのため、教育学を学ぶ学生には、多様な視点やアプローチによって教育という営みについて考察し、教育のありうる姿を構想・具体化する力を身につけることが必要です。教育学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。 <ol style="list-style-type: none"> (1)知識・技能 教育学の専門分野を学ぶために必要な高等学校までの基礎的・基本的な知識・技能を習得し、観察・実験をし、その結果をもとにレポートを作成したり、文章や資料を読んだ上で、知識や経験に照らして自分の考えをまとめたりするなど、それぞれの教科の知識・技能を活用できる力を身につけている人。 (2)思考力・判断力・表現力 教育学的な視点で自ら問題を発見し、課題解決のため教科等を横断した探究活動ができる力を身につけている人。 情報を多面的・多角的に精査し構造化することを通して、自分の考えを形成し、様々な方法で表現できる力を身につけている人。

(3)主体性等

学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる態度が身についている人。

多様性を尊重する態度や互いの良さを生かして協働する力が身についている人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、国語については、高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り基礎学力の向上に努めてください。基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。自分の興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

また、自ら問題を発見し、様々な情報を活用しながら、問題を解決し、それを発信できる言語能力を高めてきてください。

2. 入学試験制度と評価

教育学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。一般・共通テスト併用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4)学校推薦型選抜（公募）

資料小論文では読解、要約、分析、論述の学力を多面的・総合的に評価します。さらに、志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。その上で、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。資料小論文の結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認し、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の 3 要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望して

いることを確認し、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認し、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7)外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(8)社会人選抜

資料小論文では読解、要約、分析、論述の学力を多面的・総合的に評価します。さらに、志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。その上で、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。

資料小論文の結果及び出願書類にもとづき行う面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(9)編入学試験・学士入学試験

英語に関する個別学力検査と小論文によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接によって主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。個別学力検査と小論文及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 教育学科の教育を通じて養成する人材像

教育学の学修方法は、「教えるー学ぶ」に関連する理論と実践について、言語、身体、感覚のすべてを視野に含みつつ、考察を行うことを基盤としています。その学修方法を通して、多様な視点やアプローチによって教育という営みについて考察し、教育のありうる姿を構想・具体化する能力を身につけます。

学部等名 人文学部英語英文学科

教育研究上の目的

(公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html>)

(概要)

英語英文学科は、高度な英語運用能力を育成するとともに、英語圏の言語、文学についての幅広い教育を行うことによって、広い教養と国際的視野及び高度なコミュニケーション能力を備えた人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/english.html>)

(概要)

英語英文学科は、学生一人ひとりが「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の3点を学士課程教育において身につけるべき学力として明示します。

1. 知識と技能

講義、ゼミナールなどでの読む・聞く・書く・話すことの反復をとおして、言語としての英語、及び英語圏の文化の諸相に関する知識を収集・整理・理解し、分析・表現することができるようになること。

<p>2. 思考力・判断力・表現力 修得した知識と技能をもって、自らの課題を発見し、課題の解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。</p> <p>3. 多様な人々との協創 グローバル化が進む社会において活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけ、主体性をもって異なる文化や価値観を等しく尊重し学び合う態度を養うこと。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/english.html)</p>
<p>(概要) 英語英文学科は、学生一人一人が円滑に大学での学修を開始し、学士課程をとおして深い学識を身につけ、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の3点を教育課程の編成方針として明示します。</p> <p>1. 基礎から発展へ 基礎的な英語運用能力を修得し、専門性の高い学修に結び付けるため、初年次の英語力錬成科目から高学年次の発展的な科目へ、科目を段階的に配置します。</p> <p>2. 視野の拡大 英語圏の文学・文化と英語学・英語教育学に関する専門的知識の修得にむけて、自専攻科目の中にそれぞれの分野の科目を体系的に配置します。学士課程における学修成果の集大成として卒業研究を必修とします。</p> <p>3. 経験の拡充 卒業後の実社会での活動に資するため、時事問題や各種英語検定に対応した科目群のほか、語学の専門職に必要な技能を育成するための科目群を配置します。また英語圏での授業や生活を通じて、英語の実践的運用能力を向上させ、同時に幅広い国際的視野を身につけることができるように海外研修プログラムを提供し、単位を認定します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/english.html)</p>
<p>(概要) 1. 求める学生像 英語英文学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、言語や文化、とりわけ英語や英語圏の文化に強い関心と探究心があり、英語習得に必要な不可欠な努力を惜しまず、英語で他者と積極的に交流し、多様な価値観を持つ他者とともに問題の解決に当たる協創性を備えていることを重視します。英語英文学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。</p> <p>(1)知識・技能 高等学校における英語・国語の教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、英語圏の文学や英語学・応用言語学の文献読解、さらにこれをふまえた論述や口頭でのコミュニケーションを行うための基礎となる英語の音声・語彙・文法の知識及び「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能に加え、伝達の内容に関して論理的に思考・判断・表現する際に基礎となる日本語能力を有する人。</p> <p>(2)思考力・判断力・表現力 言語や文化に関わる問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性をもって取り組む態度を有する人。</p> <p>(3)主体性等 多様な価値観を持つ他者に対する包容力を備え、主体性を持って共感的な人間関係を創造しながら、同時に自らの意図を明確に表明して相互理解を図る能力を有する人。</p> <p>【入学前に学習しておくことを期待する内容】</p>

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、英語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り英語力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

最も基本的なことを具体的にあげれば、すべての科目で自ら進んでノートを取ること、授業中挙手して大きな声で発言することです。英語学習に関しては、英文法を一通り学習すること、正しい発音で大きな声で音読すること、英検等各種検定試験に積極的に挑戦することです。これらのことは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」等の育成に役立ちます。

2. 入学試験制度と評価

英語英文学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。一般・共通テスト併用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

志望理由書にもとづいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、英語力試験にもとづいて基礎となる英語能力を評価します。さらに、面接にもとづいて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性等」を評価します。総合型選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（公募）

志望理由書にもとづいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、資料小論文試験にもとづいて基礎となる英語能力及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、面接にもとづいて、主体性と、口頭による思考力・判断力・表現力を評価します。また、出願書類にもとづき、取得した英語資格も加味します。

学校推薦型選抜（公募）では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書にもとづいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望

していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜（附属校）

志望理由書にもとづいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(10) 編入学試験・学士入学試験

英語に関する個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接によって主体性等を評価した上で、個別学力検査結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 英語英文学科の教育を通じて養う能力

言語としての英語、および英語圏の文化の諸相に関する知識と、国際化を進める社会で活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけ、自らの課題とテーマを学問的に追求し、主体性をもって協創する能力を身につけます。

学部等名 法学部法律学科

教育研究上の目的

（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html>）

（概要）

法律学科は、法に関する知識や論理的な思考の修得・涵養、多様な価値観から合理的なものを選択する判断力の養成を通じて、新たな問題に対処できる能力を持つ良識ある市民の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/dlaw.html>）

（概要）

法律学科は、法に関する知識や論理的な思考の修得・涵養、多様な価値観から合理的なものを選択する判断力の養成を通じて、新たな問題に対処できる能力を持つ良識ある市民の育成を目的として、卒業するまでに身につけるべき能力について、学士課程の学位授与の方針として、以下の通り定めます。

1. 知識と技能

講義、ゼミナールなどでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、法と社会に関する基本的知識を収集・整理・理解し、分析・表現することができるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能をもって、新たな問題に対面したとき、多様な価値観を尊重しつつ、問題の実態と背景を分析し、問題解決に利用できる規範を見出し、これに基づく解決策や解決の方向を示すことのできる論理的思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。

3. 多様な人々との協創

良識と教養ある市民として、自己を律し、多様な立場や価値観を尊重し、主体性をもって、他者と協同して社会の発展に寄与することができるようになること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表
<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/dlaw.html>)

(概要)
法律学科は、公正で透明なルールにもとづく法化社会において不可欠な法的知識・法的思考能力（リーガルマインド）を身につけた社会人となることができるよう、教育課程の編成方針を以下の通り定めます。

1. 基礎から発展へ

法律に関する基本的知識を講義する科目をレベル別に基礎・基本・発展の3つに区分し、個々の到達度にあわせて体系的に履修できるように工夫します。法的思考能力（リーガルマインド）を養成するために必要な演習・ゼミナール科目を初年次から順次履修できるようにします。より高度で発展的な知識・思考力を養成するために、特別講義、特別ゼミナール、インターンシップなどのアドバンスト科目を開講し、興味・関心に応じて履修できるようにします。

2. 視野の拡大

できるだけ多様な科目を開講し、興味・関心や将来の進路に対応して柔軟に組み合わせるよう履修できるようにします。法的知識の整理・確認に資する各種検定試験のうち有益なものについて単位認定します。国内外を問わず他大学等における授業科目の履修のうち有益なものについて単位認定します。

3. 経験の拡充

公務職場、弁護士や司法書士の事務所でのインターンシップを推奨します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表
<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/dlaw.html>)

(概要)
1. 求める学生像
法学部法律学科が求める学生像は以下のとおりです。
まず、広島修道大学の「道を修める」という建学精神、「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材の養成」という教育理念を理解することができる学生であることです。次に、法学部法律学科の教育目標に対応できる基礎的な学習能力を備え、かつ、将来法律専門家・公務員・企業人など、自己の進路について明確な目標を持つよう模索し続ける学生であることです。具体的には、以下の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する学生を求めます。

(1) 知識・技能

まず、国語の基礎学力を有する学生を求めます。法律学科で法解釈の素養を身につけるためには、正確に文章を読み解き、論理的に考えることがとりわけ重要です。次に、理数系科目の基礎学力を有する学生を求めます。法学に必要な論理的思考力は数学などの理数系科目の学習によって培われると考えられています。また、グローバル化した社会の中で法的素養を身につけるには、諸外国の法制度にも関心を持たなければなりません。そのため、高等学校における英語の教科に関する知識・技能を有する学生を求めます。さらに、今日の法制度を学ぶにあたって、歴史的な経緯を理解することも重要であるため、日本史・世界史の知識を有することも必要です。

(2) 思考力・判断力・表現力

公正な社会の実現に努める意欲を持っており、様々な社会の諸現象や諸問題に強い関心があり、自ら調査し、事態の背景や推移を正確に理解し、問題解決に必要な情報を収集・蓄積することのできる学生、先入観や偏見にとらわれず、多様な考え方や価値観を学習・理解するとともに、多数の解決法を比較・選択したうえで、自分の意見を決定することのできる学生、文章や議論の中で自分の意見を積極的にかつ説得力をもって表現することのできる学生を求めます。

(3) 主体性等

法律専門家・公務員・企業人など、将来の進路について明確な目標を持つよう模索し、主体的に学ぶことのできる学生、多様な立場や価値観を尊重し、他者の意見や価値観の相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力を有する学生を求めます。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

法律の学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって法学部法律学科への入学を希望する学生は、高等学校における科目の教科書レベルの知識を幅広くしっかりと習得していることが大切です。特に国語や数学、英語、歴史などの科目をしっかりと学んでください。また、新聞や様々な本を読むことにより、社会科学に関する幅広い知識を習得できるため、新聞や様々な本を読むことを強くおすすめします。

2. 入学試験制度と評価

法学部法律学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の 3 要素のうち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に重点を置いて評価・判定します。

(3) 総合型選抜

本学への入学を強く希望し、高等学校等における正課活動および課外活動に積極的に取り組み、本学法学部法律学科で学ぶことの意義について明確な興味・関心を持った者を選抜します。

総合型選抜では、学力の 3 要素のうち、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」に重点を置き、特定の課題に関するゼミナール（ゼミナール方式の場合）・社会問題についての小論文（スポーツ実績方式、芸術・文化実績方式の場合）、面接（スポーツ実績方式、芸術・文化実績方式の場合）、活動報告書（スポーツ実績方式、芸術・文化実績方式の場合）、出身学校調査書（一定の評定平均値を満たす必要があります）、志望理由書等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(4) 学校推薦型選抜（公募）

本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、高等学校等における正課活動および課外活動に積極的に取り組み、本学法学部法律学科で学ぶことの意義について明確な興味・関心を持った者を選抜します。

学校推薦型選抜（公募）では、学力の 3 要素のうち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に重点を置き、英語試験（英語方式）・資料小論文試験（小論文方式）、面接、出身学校長の推薦書、出身学校調査書（一定の評定平均値を満たす必要があります）、志望理由書等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（指定校）

本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、高等学校等における正課活動および課外活動に積極的に取り組み、本学法学部法律学科で学ぶことの意義について明確な興味・関心を持った者を選抜します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の 3 要素全てを同じ比重で、社会問題についての

小論文及び社会問題に関する3分間説明、面接、出身学校長の推薦書、出身学校調査書（一定の評定平均値を満たす必要があります）、志望理由書等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜（附属校）

本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、高等学校における正課活動および課外活動に積極的に取り組み、本学法学部法律学科で学ぶことの意義について明確な興味・関心を持った者を選抜します。

学校推薦型選抜（附属校）では、学力の3要素全てを同等の比重で、面接、出身学校長の推薦書、出身学校調査書（一定の評定平均値を満たす必要があります）、志望理由書等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜（ゼミナール方式）と同じ方式で実施します。

(8) 外国人留学生選抜

主に入学後の学修に必要な基礎学力を有している者を選抜します。選抜においては、資料小論文試験、日本留学試験のスコア、面接、出願書類等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(9) 編入学試験・学士入学試験

第3学年次に編入するために必要な基礎学力を有している者を選抜します。選抜においては、英語試験・資料小論文試験、面接、成績証明書、志望理由書等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

3. 法律学科の教育を通じて養う能力

法律学科の教育目標を実現するために必要な法的知識と技能を修得し、法的課題の発見および解決に取り組み、その成果を表現するために必要な法的思考力・判断力・表現力等の能力を持ち、多様な人々と協創して学びあう能力を養います。

学部等名 経済科学部現代経済学科

教育研究上の目的

（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html>）

（概要）

現代経済学科は、伝統的な経済学の成果を取り入れつつ、最新の経済現象や経済問題を学問対象とし、最新の統計的・数量的手法等を学問方法として教育研究を行うことによって、現代の経済社会を体系的に把握かつ科学的に分析する能力を有する人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/economics.html>）

（概要）

現代経済学科は、学生一人ひとりが「現代の経済社会を体系的に把握かつ科学的に分析する能力を有する人材」となることができるよう、以下の3点を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識と技能

経済社会に関する基礎知識や基本技能を修得し、それらを時事経済の理解や日々の経済活動に活用できる能力を有すること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識や技能にもとづいて、実際の経済問題や経済現象に着目し、その解決や解明に向けて論理的に思考・判断かつ科学的に分析する能力を有し、さらに分析結果を的確に表現できる能力を有すること。

3. 多様な人々との協創

経済社会における諸問題や諸現象に対し、各人が主体性を持って専門的学修を行なうと

<p>同時に、多様な人々とも協働し、協創する学修姿勢を有すること。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/economics.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>現代経済学科は、学生一人ひとりが円滑に大学の学修を開始し、学士課程をとおして深い学識を身につけ、「現代の経済社会を体系的に把握かつ科学的に分析する能力を有する人材」となることができるよう、以下の3点を教育課程の編成方針として明示します。</p> <p>1. 基礎から発展へ 経済社会を学ぶための初年次教育を実施します(修道スタンダード等)。そして主専攻科目群として、数量経済(A群)、総合現代経済(B群)、現代経済分析(C群)を設置し、基礎科目から発展科目まで専門教育を行ないます。また、多様な入学生を想定し、初年次から少人数教育を充実させると同時に、高学年次にはゼミ教育・卒論教育等を通じ、各人に専門的指導を行ないます(D・E群等)。</p> <p>2. 視野の拡大 広範な視野・視点を養うべく、法律関係科目など、他学部・他学科から関連科目・周辺科目を導入します(G・H群等)。また、国際化への対応の一環として、語学関連や異文化関連の科目を導入します(I群等)。</p> <p>3. 経験の拡充 実社会や地域社会で主体的に活動し、また多様な人々と協働・協創し、様々な経験や体験を蓄積させるべく、地域関係やインターンシップ関係等の現代経済学科独自の実践的科目を開講します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/economics.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>1. 求める学生像 現代経済学科は、学士課程教育を受ける際に必要とされる基礎学力および主体性等を備えた人を、様々な入学試験制度によって選抜し、受け入れます。現代経済学科が求める学生像は、経済社会・経済問題・経済現象等に強い関心を持ち、これまでの学修経験を通じて、以下の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。</p> <p>(1)知識・技能 高等学校における英語・国語・数学の初等的な知識・技能は修得していること。すなわち、現代経済学の講義を受ける際に最低限必要とされる基礎学力を有し、真摯に受講すれば講義内容を十分に理解できる能力を有する人。</p> <p>(2)思考力・判断力・表現力 経済問題や経済現象に対し、論理的かつ科学的に思考・判断する能力を有し、さらに考察結果を明快に表現する能力を有する人。</p> <p>(3)主体性等 経済問題や経済現象に常に関心を持ち、主体的・能動的に学修に取り組むと同時に、学修過程において多種多様な他者と明朗快活にコミュニケーションをとる能力を有する人。</p> <p>【入学前に学習しておくことを期待する内容】 文科系・理科系を問わず、あるいは商業・工業・総合等の学科を問わず、高校低学年次における英国数の必須科目は確実に学修しておいてください。その基礎学力と真摯な学修姿勢があれば、現代経済学科の大半の講義は修得できます。</p> <p>2. 入学試験制度と評価方法 現代経済学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。</p>

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4)総合型選抜

講義理解力試験で現代経済学を学ぶ際に必要な「思考力・判断力・表現力」を評価します。また、面接・出願書類にもとづいて、現代経済学科入学を強く希望しているか、学修のみならず万事に真摯かつ熱心であるかなど、「主体性等」を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力および主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（公募）

現代経済学科入学を強く希望し学校長が推薦する学修意欲の高い生徒を、一定の評定平均値を条件に、英語方式・小論文方式・指定資格方式・英語資格方式で選抜します。

英語方式・小論文方式では個別学力検査で知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価し、面接・出願書類で主体性等を評価し、調査書も加味して多面的・総合的に評価・判定します。指定資格方式・英語資格方式では面接・出願書類で知識・技能、主体性等を評価し、調査書で思考力・判断力・表現力を確認して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（指定校）

修学実績をとまなう高校等を対象に、現代経済学科入学を強く希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて現代経済学科入学を強く希望しているか等を評価し、面接で特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素のうち、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

附属高校を対象に、現代経済学科入学を強く希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて現代経済学科入学を強く希望しているか等を評価し、面接で特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素のうち、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

附属高校を対象に、現代経済学科入学を希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて現代経済学科で学修することの意義を理解し学習意欲があるか等を評価し、面接で特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素のうち、主体性等に重点を置き、

調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

小論文によって知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価し、日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接と出願書類によって、主体性等も加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(10) 編入学試験・学士入学試験

個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接と出願書類によって、主体性等も加味して多面的・総合的に評価・判定します。

3. 現代経済学科の教育を通じて養う能力

現代経済学科の入学者には、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるところの知識・技能、思考力・判断力・表現力、多様な人々と協創する姿勢を涵養し、「現代の経済社会を体系的に把握かつ科学的に分析する能力を有する人材」として養成します。

学部等名 経済学部経済情報学科

教育研究上の目的

(公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html>)

(概要)

経済情報学科は、経済・経営・社会・環境等をシステムとして把握し、それらに対してコンピュータを駆使した科学的かつ論理的な教育研究を行うことによって、経済社会の発展に貢献しうる情報処理能力及び論理的思考力を有する人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/infomatics.html>)

(概要)

経済情報学科は、学生一人ひとりが「経済社会の発展に貢献しうる情報処理能力および論理的思考力を有する人材」となることができるよう、以下の3点を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識と技能

情報科学・システム科学に関する基礎知識や基本技能を修得し、それらを実際の経済社会で有効に活用できる能力を有すること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識や技能にもとづいて、情報化時代の諸問題や諸現象に着目し、その解決や解明に向けて論理的に思考・判断かつ科学的に分析する能力を有し、さらに分析結果を的確に表現できる能力を有すること。

3. 多様な人々との協創

情報科学・システム科学の基礎分野あるいは応用分野において、各人が主体性を持って専門的学修を行なうと同時に、多様な人々とも協働し、協創する学修姿勢を有すること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/infomatics.html>)

(概要)

経済情報学科は、学生一人ひとりが円滑に大学の学修を開始し、学士課程をとおして深い学識を身につけ、「経済社会の発展に貢献しうる情報処理能力および論理的思考力を有する人材」となることができるよう、以下の3点を教育課程の編成方針として明示します。

1. 基礎から発展へ

コンピュータやシステムを学ぶための初年次教育を実施します(修道スタンダード等)。そして主専攻科目群として、数量経済(A群)、システム科学(B群)、情報科学(C群)を設置し、基礎科目から発展科目まで専門教育を行ないます。また、多様な入学生を想定し、初年次から少人数教育を充実させると同時に、高学年次にはゼミ教育・卒論教育等を通じ、各人に専門的指導を行ないます(D・E群等)。

2. 視野の拡大

広範な視野・視点を養うべく、法律関係科目など、他学部・他学科から関連科目・周辺科目を導入します(G・H群等)。また、国際化への対応の一環として、語学関連や異文化関連の科目を導入します(I群等)。

3. 経験の拡充

実社会や地域社会で主体的に活動し、また多様な人々と協働・協創し、様々な経験や体験を蓄積させるべく、プロジェクト関係やインターンシップ関係等の経済情報学科独自の実践的科目を開講します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法: Web サイト上で公表
<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/infomatics.html>)

(概要)

1. 求める学生像

経済情報学科は、学士課程教育を受ける際に必要とされる基礎学力および主体性等を備えた人を、様々な入学試験制度によって選抜し、受け入れます。経済情報学科が求める学生像は、情報社会・情報科学・システム科学等に強い関心を持ち、これまでの学修経験を通じて、以下の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における英語・国語・数学の初等的な知識・技能は修得していること。すなわち、経済情報学の講義を受ける際に最低限必要とされる基礎学力を有し、真摯に受講すれば講義内容を十分に理解できる能力を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

情報科学やシステム科学の学修に際し、論理的かつ科学的に思考・判断する能力を有し、さらに考察結果を明快に表現する能力を有する人。

(3) 主体性等

情報科学やシステム科学に常に関心を持ち、主体的・能動的に学修に取り組むと同時に、学修過程において多種多様な他者と明朗快活にコミュニケーションをとる能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

文科系・理科系を問わず、あるいは商業・工業・総合等の学科を問わず、高校低学年次における英国数の必須科目は確実に学修しておいてください。その基礎学力と真摯な学修姿勢があれば、経済情報学科の大半の講義は修得できます。

2. 入学試験制度と評価方法

経済情報学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によっ

て多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

講義理解力試験で経済情報学を学ぶ際に必要な「思考力・判断力・表現力」を評価します。また、面接・出願書類にもとづいて、経済情報学科入学を強く希望しているか、学修のみならず万事に真摯かつ熱心であるかなど、「主体性等」を評価します。

総合型選抜では、学力の 3 要素のうち、思考力・判断力・表現力および主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（公募）

経済情報学科入学を強く希望し学校長が推薦する学修意欲の高い生徒を、一定の評定平均値を条件に、英語方式・小論文方式・指定資格方式・英語資格方式で選抜します。英語方式・小論文方式では個別学力検査で知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価し、面接・出願書類で主体性等を評価し、調査書も加味して多面的・総合的に評価・判定します。指定資格方式・英語資格方式では面接・出願書類で知識・技能、主体性等を評価し、調査書で思考力・判断力・表現力を確認して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜（指定校）

修学実績をとまなう高校等を対象に、経済情報学科入学を強く希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて経済情報学科入学を強く希望しているか等を評価し、面接で特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の 3 要素のうち、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

附属高校を対象に、経済情報学科入学を強く希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて経済情報学科入学を強く希望しているか等を評価し、面接で特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の 3 要素のうち、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

附属高校を対象に、経済情報学科入学を希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて経済情報学科で学修することの意義を理解し学習意欲があるか等を評価し、面接で特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の 3 要素のうち、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

<p>(8)帰国生選抜 帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。</p> <p>(9)外国人留学生選抜 小論文によって知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価し、日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接と出願書類によって、主体性等も加味して多面的・総合的に評価・判定します。</p> <p>(10)編入学試験・学士入学試験 個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接と出願書類によって、主体性等も加味して多面的・総合的に評価・判定します。</p> <p>3. 経済情報学科の教育を通じて養う能力 経済情報学科の入学には、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるところの知識・技能、思考力・判断力・表現力、多様な人々と協創する姿勢を涵養し、「経済社会の発展に貢献しうる情報処理能力および論理的思考力を有する人材」として養成します。</p>
--

<p>学部等名 人間環境学部人間環境学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html)</p>
<p>(概要) 人間環境学科は、持続可能な社会を構築するために、社会・文化・経済・政治・法律・自然などが複合的に関連する領域において、環境問題を総合的に把握・分析し、有効な解決策を見出すことのできる社会科学系の環境の専門家を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/enviro.html)</p>
<p>(概要) 人間環境学部は、持続可能な社会の実現に貢献できる学生を養成するため、以下の3点を学士課程教育として身につけるべき学士力として明示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 社会・文化・経済・政治・法律・自然などが複合的に関連する領域において、環境問題を総合的に把握・分析できる広い視野と知識・技能を有するようになること。 2. 思考力・判断力・表現力 獲得した広い視野ならびに修得した知識・技能をもって、多様な環境問題の解決策を考察できる論理的な思考力・判断力・表現力を有するようになること。また、自分の考え・判断のプロセスを説明するためのコミュニケーション能力を有するようになること。 3. 多様な人々との協創 地域社会から地球全体に至る様々な環境問題を自分の問題として共感的にとらえ、持続可能な社会の実現のため、多様な人々と協調・協働しつつ、主体的に行動する意志を有するようになること。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/enviro.html)</p>

(概要)

人間環境学部は、持続可能な社会の実現に貢献できる学生を養成するため、以下の3点を教育課程の編成方針として明示します。

1. 基礎から発展へ

人間と環境の関わりを学ぶために必要な基本概念を学ぶ入門科目、環境問題を科学的に考察するために必要な基礎知識を学ぶ基礎科目、環境問題を解決するために必要な専門知識と方法論を学ぶ発展科目を体系的に配置します。

2. 視野の拡大

環境問題に関わる学問分野を7つの小さなまとまり（環境政策・環境経営・環境経済・環境教育・地域環境・科学技術・人文科学）に分類し、学生の興味・関心に応じた学際的な科目を提供します。また、学んだ知識・技能を統合し、問題解決力や新たな価値の創造力を育成するためにゼミナール科目を設けます。

3. 経験の拡充

社会人基礎力を育成するとともに、人間と社会の諸々の相互関係を分析し、多様な人々と協働して環境について学修するためにフィールド科目を設けます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/environ.html>

(概要)

1. 求める学生像

人間環境学科は、学士課程教育を受けるのに必要な基礎学力を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、環境問題に広く関心を持ち、その解決に向けて主体的に学習・行動し、持続可能な社会の構築に資する意欲を持つ人材を広く国内外から受け入れます。人間環境学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1)知識・技能

- ・高等学校で学習する教科についての基礎的な知識を身につけている人
- ・高等学校等で学習する環境問題についての基礎的な知識を身につけている人
- ・基礎的な知識を伝達するために、外国語を含む基本的な言語運用能力を身につけている人

(2)思考力・判断力・表現力

- ・環境問題についての基礎的な知識にもとづいて、理論的・体系的に考えることができる人
- ・環境問題についての基礎的な知識にもとづいて、問題解決に必要な情報を選択し、解決の方向性について自分の考えを持つことができる人
- ・外国語を含む基本的な言語運用能力を用いて、自分の考えを論理的にわかりやすく表現することができる人

(3)主体性等

- ・地域社会から地球全体に至る様々な環境問題を自分自身の問題としてとらえ、問題解決のために学ぶ意欲・関心・態度を持つ人
- ・持続可能な社会を構築するために、様々な活動に積極的に参加する意欲を持つ人
- ・持続可能な社会を構築するために、多様な人々と対話し協働して活動することができる人

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

- ・環境問題に関連する文系・理系の枠組みを超えた専門分野を学ぶために、高等学校で学習する幅広い教科の教科書レベルの知識を身につけておくこと
- ・書籍や新聞等を読んで、環境問題をはじめとする国内外の問題について幅広い知識を身につける努力をしておくこと
- ・国内外の環境問題について普段から関心を持ち、自分の考えを表現できるようになっておくこと

2. 入学試験制度と評価

人間環境学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を得点化して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

本学への入学を強く希望し、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。選抜の方式には、総合型選抜〔レポート方式〕、総合型選抜〔プレゼンテーション方式〕、総合型選抜〔活動実績方式〕があります。

総合型選抜〔レポート方式〕では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、テーマに関するレポート、レポートに関する質疑応答審査、テーマに関連する知識を問う筆記試験、志望理由書、調査書（高等学校での評定平均値を満たす必要があります）によって多面的・総合的に評価します。総合型選抜〔レポート方式〕では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

総合型選抜〔プレゼンテーション方式〕では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、テーマに関するプレゼンテーション審査、テーマに関連する知識を問う筆記試験、志望理由書、調査書（高等学校での評定平均値を満たす必要があります）によって多面的・総合的に評価します。総合型選抜〔プレゼンテーション方式〕では、学力の 3 要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置いて評価・判定します。

総合型選抜〔活動実績方式〕では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、高等学校等での活動実績、小論文、面接、志望理由書、調査書（高等学校での評定平均値を満たす必要があります）によって多面的・総合的に評価します。総合型選抜〔活動実績方式〕では、学力の 3 要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（公募）

【専願】

本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。選抜の方式には、学校推薦型選抜（公募）〔英語方式・専願〕があります。

学校推薦型選抜（公募）〔英語方式・専願〕では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、英語の個別学力検査、面接、志望理由書、推薦書、調査書（高等学校での評定平均値を満たす必要があります）によって多面的・総合的に評価します。学校推薦型選抜（公募）〔英語方式・専願〕では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

【併願】

本学での学修に意欲を持ち、学校長から推薦され、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。選抜の方式には、学校推薦型選抜（公募）〔英語資格方式・併願〕、学校推薦型選抜（公募）〔数学資格方式・併願〕があります。

学校推薦型選抜（公募）〔英語資格方式・併願〕では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、英語の資格・検定、面接、志望理由書、推薦書、調査書（高等学校での評定平均値を満たす必要があります）によって多面的・総合的に評価します。学校推薦型選抜（公募）〔英語資格方式・併願〕では、学力の3要素のうち、知識・技能に重点を置いて評価・判定します。

学校推薦型選抜（公募）〔数学資格方式・併願〕では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、数学の資格・検定、面接、志望理由書、推薦書、調査書（高等学校での評定平均値を満たす必要があります）によって多面的・総合的に評価します。学校推薦型選抜（公募）〔数学資格方式・併願〕では、学力の3要素のうち、知識・技能に重点を置いて評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜（指定校）

本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、面接、志望理由書、推薦書、調査書（高等学校での評定平均値を満たす必要があります）によって多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜（附属校）**【専願】**

本学への入学を強く希望し、附属校の学校長から推薦され、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、面接、志望理由書、推薦書、調査書（高等学校での評定平均値を満たす必要があります）によって多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

【併願】

本学での学修に意欲を持ち、附属校の学校長から推薦され、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、面接、志望理由書、推薦書、調査書（高等学校での評定平均値を満たす必要があります）によって多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

(8) 社会人選抜

入学後に必要な基礎学力を有する者を選抜するために、小論文、面接、志望理由書、調査書、その他の出願書類によって多面的・総合的に評価します。社会人選抜では、学力の3要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

(9) 帰国生選抜

入学後に必要な基礎学力を有する者を選抜するために、総合型選抜と同じ方式で多面的・総合的に評価・判定します。ただし、総合型選抜における調査書の代わりとなる出願書類の提出を求めます。

(10) 外国人留学生選抜

入学後に必要な基礎学力を有する者を選抜するために、小論文、日本留学試験（日本語）の成績、面接、志望理由書、その他の出願書類によって多面的・総合的に評価します。

外国人留学生選抜では、学力の3要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

(11) 編入学試験・学士入学試験

第3学年次に修学するために必要な学力を有する者を選抜するために、英語の個別学力検査、小論文、面接、志望理由書、その他の出願書類によって多面的・総合的に評価します。

編入学試験・学士入学試験では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

3. 人間環境学科の教育を通じて養う能力

社会・文化・経済・政治・法律・自然等、多様な領域に関連させながら、環境問題を総合的に把握・分析するための知識と理解力を身につけ、環境問題を解決するための思考力や判断力を獲得します。その上で、多様な人々と協働・協創し、その実現に向けて主体的に行動する能力を身につけます。

学部等名 健康科学部心理学科

教育研究上の目的

(公表方法: Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html>

(概要)

心理学科は、「こころ」と「からだ」に関する科学的知識を、乳幼児から高齢者に至る各年齢段階に沿って基礎と応用の側面から体系的に学修し、日常の心理学的諸問題の解決に向けて自己及び他者の行動を変容させうる実践力を備えた人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法: Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/psychology.html>

(概要)

1. 知識・技能

科学的心理学の知見・方法・理論の歴史的展開と現状に関する基礎知識を修得し、人間の「こころ」と行動を科学的に数量化し統計的に分析する技能を身につけ、活用することができる。

2. 思考力・判断力・表現力

「健康」問題に代表される日常の身近な課題の背景にある人間の「こころ」と行動の働きを自ら調べ、適切な探究方法を考案する思考力・判断力を持ち、自律的に課題の解決に取り組むことができる。さらに、得られた成果を客観的かつ論理的に記述し表現できる。

3. 多様な人々との協創

自他共に信頼し、他者の言葉に耳を傾け、他者の行動に関心を持って共感的な人間関係を構築し、協働して持続可能な問題解決プロセスを創出することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法: Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/psychology.html>

(概要)

心理学科は、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラム・ポリシーを次の通りとします。

1. 科学的心理学の知見・方法・理論の歴史的展開と現状に関する基礎的知識を体系的に教授する科目を、主専攻科目の《健康科学部総合科目》、《専門基礎科目》、及び《専門標準科目》に配置します。

2. 人間の「こころ」と行動を科学的に数量化する方法、及び得られたデータを統計的に分析する技術を教授する科目を、《健康科学部総合科目》及び《専門基礎科目》に配置します。

3. 人間の「こころ」と行動に関する基礎知識を元に、「健康」問題に代表される日常の身近な課題に対して適切な探究方法を考案し、他者と共感的な人間関係を構築しながら自律的に解決する能力を涵養する科目を、《専門発展科目》に配置します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/psychology.html>

(概要)

1. 求める学生像

心理学科では、学士課程教育を受けるために必要な基礎知識及び技能を備え、入学後の学修において必要な柔軟な思考力、創造力、主体性を持った問題発見能力・問題解決能力、及び倫理性を持ち、多様な価値観を持つ他者と協働・協創して「こころの健康」に強い関心と探究心を持って学ぶことができる人を求めます。心理学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における主要教科に関する基礎的な知識・技能を有する人。すなわち、日本語や英語で書かれた文献を読解し、論述や口頭でのコミュニケーションを行うための基礎的な国語力や英語力、社会の動向に関心を持ち、図表や資料を読み取ったり、図表を用いて表現したりするための数学や理科、社会に関する基礎的な知識・技能を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

「こころの健康」に強い関心を持ち、地域や社会における日常の身近な問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し、自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性を持って取り組む態度を有する人。

(3) 主体性等

自らの考えや意見を明確に表現するとともに、多様な価値観を持つ他者の考えや意見も尊重し、互いに理解し合う共感的な人間関係を築きながら、積極的に他者と協働・協創する力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの基本的な知識を幅広く習得していることが大切です。

特に、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために、国語の基礎学力が必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本や記事を読むこともおすすめします。

2. 入学試験制度と評価

心理学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

志望理由書にもとづいて心理学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認します。その上で、集団活動試験及び集団討論にもとづいて、問題解決のための柔軟な思考力・情報収集力、問題解決の成果を分析する能力と判断力、分析結果を論理的な文章と適切な図表とによって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性を持って他者と共に取り組む協働・協創力等を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（公募）

志望理由書にもとづいて心理学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認します。その上で、小論文形式による個別学力検査にもとづいて、知識・技能、身の周りの日常的な問題に気づく観察力や思考力、問題解決の成果を分析する能力と判断力、及び分析結果を論理的な文章によって説得的に示す表現力を評価します。さらに、集団面接、志望理由書、及び推薦書等によって、高等学校等での正課・課外活動への主体性を持った取り組み、及び多様な価値観を持つ他者に対する包容力と協働・協創力等を評価します。

学校推薦型選抜（公募）では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、推薦書等にもとづく主体性等の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書にもとづいて心理学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び協働・協創力等を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書にもとづいて心理学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び協働・協創力等を評価します。面接の結果に重点を置き、志望理由書と推薦書にもとづく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて心理学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び協働・協創力等を評価します。面接の結果に重点を置き、志望理由書と推薦書にもとづく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに、志望理由書にもとづいて心理学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認した上で、面接によって知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働・協創力、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(10) 編入学試験・学士入学試験

英語、小論文、面接の試験科目を課して、第3年次に入学するために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を有しているかを多面的・総合的に評価します（2023年度は実施しません）。

3. 心理学科の教育を通じて養う能力

心理学科では、人間の「こころ」の心理学的・生理学的な仕組みと働きについて科学的に探究し、「こころの健康」の回復・保持・増進に向けて、他者と協働・協創して、問題の解決に当たることのできる能力を身につけます。

具体的には、心理学の実験や実習、研究法に関する科目を通じて、基礎的な知識・技能、科学的な思考力・判断力・表現力、学修及び協働・協創への主体性を身につけます。これらの基礎的な力を土台として、「こころ」の健康を研究する上での基礎となる人間の行動全般について理解し、ビジネスや生活など社会のさまざまな場面の問題把握と解決に役立つ専門的な知識・技能を身につける心理科学領域科目群、「こころ」の健康を支える社会・組織について心理学の観点から理解し、意識調査やビッグ・データなどを分析して人間の心理・行動特性を見出すための専門的な知識・技能を身につける心理調査領域科目群、「こころ」の健康状態を観察・分析し、その回復・保持・増進を支援するための専門的な知識・技能を身につける心理臨床領域科目群を通じて、基礎から臨床まで特定の領域に偏らず幅広い領域の専門的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を修得します。また、公認心理師養成に対応したカリキュラムも整備されており、公認心理師資格の取得を目指す人は、公認心理師に求められる実践的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけることもできます。

そして、自らが興味を持った研究テーマについて主体性を持って取り組む卒業論文を通じて、4年間で培った専門的な知識・技能、思考力や判断力、表現力を十分に発揮し、大学での学修の集大成とします。

さらに、公認心理師や臨床心理士などのより高度な専門職業人を目指す人や、4年間の学修をさらに深めより発展的な学修を求める人のために、本学大学院人文科学研究科心理学専攻への進学も積極的にサポートします。

学部等名 健康科学部健康栄養学科

教育研究上の目的

(公表方法：Web サイト上で公表
<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html>)

(概要)
健康栄養学科は、幅広い年齢層の健康な人から傷病者までを対象とした「健康と栄養」に関する専門知識と技能を、基礎と応用の両面から体系的に学修し、実践を通じて地域の人々の健康維持・増進に貢献することのできる管理栄養士の資格を有する人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表
<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/nutrition.html>)

(概要)
1. 知識・技能
栄養学を核とし、保健・医療・福祉・食品・心理と連携する学際的な領域において、「からだ」の健康と栄養に関する高度な専門知識と技能を有し、実践的な場において活用することができる。
2. 思考力・判断力・表現力
「健康」問題に代表される日常の身近な課題を確認し、適切な探究方法を考案する思考力・判断力を持ち、自律的に課題の解決に取り組むことができる。さらに、得られた成果を客観的かつ論理的に記述できる表現力を備えている。
3. 多様な人々との協創
食生活に関する自己管理能力を持ち、自身が望ましい食習慣を形成するとともに、他者の言葉に耳を傾け、他者の行動に関心を持って人間関係を構築し、協働して持続可能な食

<p>や健康に関する問題解決プロセスを創出することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/nutrition.html)</p>
<p>(概要) 健康栄養学科は、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラム・ポリシーを次の通りとします。 1. 栄養学を核とし、保健、医療、福祉、食品、心理と関連する学際的な領域において、「からだ」の健康と栄養に関する高度な専門知識と技能を体系的に教授する科目を、主専攻科目の《健康科学部総合科目》、《専門基礎分野》、及び《専門分野》に配置します。 2. 「からだ」の健康と栄養について、学際的・科学的にアプローチするための理論と方法を教授する科目を《健康科学部総合科目》に、管理栄養士として必要とされる基礎知識と技術を涵養する科目を《専門基礎分野》に、管理栄養士としての確かな実践力並びに他者と共感的な人間関係を構築しながら自律的に問題解決に当たる協働性を涵養する科目を《専門分野》に配置します。 3. 地域社会の実践的な場において必要とされる発展的な知識を教授すると共に、地域の人々の健康回復・保持・増進に貢献できる力を涵養する科目を《専門発展分野》及び《ゼミナール》に配置します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/nutrition.html)</p>
<p>(概要) 1. 求める学生像 健康栄養学科では、学士課程教育を受けるために必要な基礎知識及び技能を備え、入学後の学修において必要な柔軟な思考力、創造力、主体性を持った問題発見能力・問題解決能力、及び倫理性を持ち、多様な価値観を持つ他者と協働・協創して「人の健康と栄養」に強い関心と探究心を持って学ぶことができる人を求めます。健康栄養学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。 (1)知識・技能 高等学校における主要教科に関する基本的な知識・技能を有する人。すなわち、日本語や英語で書かれた文献を読解し、論述や口頭でのコミュニケーションを行うための基礎的な国語力や英語力、社会の動向に関心を持ち、図表や資料を読み取ったり、図表を用いて表現したりするための数学や理科、社会に関する基礎的な知識・技能を有する人。 (2)思考力・判断力・表現力 「人の健康と栄養」に強い関心を持ち、地域や社会における日常の身近な問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し、自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性を持って他者と協働・協創できる態度を有する人。 (3)主体性等 自らの考えや意見を明確に表現するとともに、多様な価値観を持つ他者の考えや意見も尊重し、互いに理解し合う共感的な人間関係を築きながら、積極的に他者と協働・協創する力を有する人。 【入学前に学習しておくことを期待する内容】 大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの基本的な知識を幅広く習得していることが大切です。 特に、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために、国語の基礎学力が必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本や記事を読むこともおすすめします。</p>

2. 入学試験制度と評価

健康栄養学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。その上で、課題に関するレポート、課題レポートをもとにしたプレゼンテーションの内容（質疑応答の状況を含む）で審査を行います。その審査結果および調査書にもとづき、多面的・総合的に評価します。

総合型選抜では、学力の 3 要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（公募）

志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。その上で、小論文形式による個別学力検査にもとづいて、知識・技能、身の周りの日常的問題に気づく観察力や思考力、問題解決の成果を分析する能力と判断力、及び分析結果を論理的な文章によって説得的に示す表現力を評価します。さらに、集団面接、志望理由書、及び推薦書等によって、高等学校等での正課・課外活動への主体性を持った取り組み、及び多様な価値観を持つ他者に対する包容力と他者との協働・協創性等を評価します。

学校推薦型選抜（公募）では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、推薦書等にもとづく主体性等の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、「人の健康と栄養」に関して強い関心を持ち、入学を希望していることを確認した上で面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び他者との協働・協創性を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の 3 要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、「人の健康と栄養」に関して大いに関心を持ち、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び他者との協働・協創性を評価します。

面接の結果に重点を置き、志望理由書と推薦書にもとづく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、「人の健康と栄養」に関して大いに関心を持ち、学習意欲があることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び他者との協働・協創性を評価します。面接の結果に重点を置き、志望理由書と推薦書にもとづく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8)帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9)外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに、志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認し、面接によって知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働・協創性、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 健康栄養学科の教育を通じて養う能力

健康栄養学科では、「人と食」の多面的な学びをベースに、主たるテーマである「人の健康と栄養」を科学的に探求し、栄養士・管理栄養士として「人の健康の回復・保持・増進」に向けて、他者と協働・協創して、問題の解決に当たることのできる能力を身につけます。

具体的には、入学当初から専門的基礎分野の学修が始まり、「社会環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」に分類される科目群において「人の健康と栄養」を学ぶための専門的基礎学力を積み上げます。

また、学年進行に沿って専門分野の学修が連続し、「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」に分類される科目群において、栄養士・管理栄養士に必要な専門的・実践的な知識や技術を身につけます。本学科では、講義・演習・実習の三位一体で「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を身につけます。そして学生が進んで自ら学び、学修活動を行うことによって、「主体性等」が醸成されます。

これらを統合した学修として3～4年次にかけて「臨地実習」や「卒業研究」を体験します。そこでは4年間を通じて積み上げ、蓄積した専門的な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」そして「主体性等」を大いに発揮し、栄養士・管理栄養士として必要とされる専門的実践力を身につけられるよう、大学での学修の集大成とします。在学期間を通して、栄養士・管理栄養士を目指す者としての視座から、「人の健康と栄養」を深く考える機会をもち、「人の健康の回復・保持・増進」を支援するために必要な「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を高めます。また、あらゆる場面で要求される的確なコミュニケーション能力を養い、自らの課題とテーマを学問的に追求し、主体性を持って他者と協働・協創する能力を培い、人を思いやれる栄養士・管理栄養士として地域社会の発展に貢献できる人材となることを目指します。

<p>学部等名 国際コミュニティ学部国際政治学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html)</p>
<p>(概要) 国際政治学科は、日本と世界のさまざまな問題に対する知識と理解力を持ち、深い教養と良識、多言語多文化社会におけるコミュニケーション力を備えた市民の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/globalpolitics.html)</p>
<p>(概要) 国際政治学科は、国際政治学科はコミュニティ間のグローバルなつながりから社会をとらえる視点を重視し、広島と世界各国・各地域との架け橋となりグローバル社会に積極的に関与することのできる人材の育成を目的として、学生が卒業するまでに身につけるべき能力を、学士課程の学位授与の方針として、以下の通り定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識と技能 講義やゼミナール、異文化体験などでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、日本と世界のさまざまな問題や国際社会のダイナミズムを理解できる基本的知識を収集・整理・理解し、分析・表現することができるようになること。 2. 思考力・判断力・表現力 修得した知識と技能をもって、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、国際社会や地域社会の将来や事態の推移を洞察することのできる広い視野と世界とつながる思考力・判断力・実践的なコミュニケーション力等の能力を持つようになること。 3. 多様な人々との協創 多様な立場や価値観を尊重し、主体性をもって、さまざまな国の人々と相互協力のできる市民としての国際的知性と良識を身につけること。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/globalpolitics.html)</p>
<p>(概要) <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎から発展へ 国際政治学科が扱う多岐にわたる領域を整理し、順序性のある学修を可能にするために、ナンバリング制により主専攻科目を配置します。国際共通語である英語による実践的コミュニケーション力を高めるために〈英語科目〉を1年次から集中的に配置するほか、海外経験を推奨します。 2. 視野の拡大 国際社会のダイナミズムを理解するために、政治・法律・経済・文化などの多様な学問分野の科目を履修できる学際的なカリキュラムを工夫します。 3. 経験の拡充 国際社会や地域社会で活躍するための実践的な力を養うために異文化体験を推奨し、国際機関などでのインターンシップや海外留学を実現しやすくするため、4学期制を導入し、これらの成果を単位認定します。 </p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/globalpolitics.html)</p>

(概要)

1. 求める学生像

国際政治学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、Think Globally, Act Locally を念頭に、コミュニティ間のグローバルなつながりから社会をとらえる視点を有し、社会が直面する様々な問題を理解し、課題の解決へ積極的に関与するとともに、英語によるコミュニケーション力により広島と世界との架け橋となろうとする志向を備えていることを重視します。

国際政治学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1)知識・技能

高等学校における社会・国語・英語の教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、コミュニティ間のグローバルなつながりから社会をとらえる視点と国際的な政治・文化・歴史・生活への知識、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能に加え、伝達の内容に関して論理的に思考・判断・表現する際に基礎となる日本語能力および国際的なコミュニケーションを行うための基礎となる英語の知識を有する人。

(2)思考力・判断力・表現力

社会との関連性を意識して社会に関わる出来事や問題に気づく観察力、その出来事・問題を理解するために文献を読解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって社会に対する幅広い視野を持った意見を説得的に示す表現力を有する人。

(3)主体性等

多様な価値観を持つ他者に対する包摂力を備え、主体性を持って社会において人々とつながりを生む人。同時に自らの意図を明確に表明し、さまざまな国の人々と相互協力して課題解決を目指し、意見する能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、社会については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り社会を読み解く力の向上に努めてください。国語・英語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、日本や世界の国々に関する様々な本を読むこと、多様な体験をしてみることが勧めます。

2. 入学試験制度と評価

国際政治学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。一般選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。共通テスト利用選抜では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4)総合型選抜

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、小論文試験等にもとづいて基礎となる知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、面接等にもとづいて、思考力・判断力・表現力および主体性等を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（公募）

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。

学校推薦型選抜（公募）〔英語方式〕では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、主体性等の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校型推薦型選抜（公募）〔課題映像方式〕では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力および主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校推薦型選抜（公募）〔指定資格方式〕では、学力の3要素のうち、知識・技能および主体性等に重点を置き、思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜（指定校・後期）

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに、面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、および日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、志望理由書等出願書類と面接結果にもとづいて多面的・総合的に評価・判定します。

(8)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(9)帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(10)外国人留学生選抜

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、および日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、小論文、日本留学試験の成績と面接結果にもとづいて評価・判定します。

3. 国際政治学科の教育を通じて養う能力

国際政治や世界の国々に関する知識を習得し、国際共通語である英語の力を伸ばし、社会における課題の発見および解決を目指すことのできる能力、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を持ち、多様な人々と協働する能力を養います。

学部等名 国際コミュニティ学部地域行政学科

教育研究上の目的

(公表方法：Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/purpose/educationalresearch.html>

(概要)

地域行政学科は、地域社会のさまざまな課題に関する知識と理解力を持ち、多様な人々と協働して課題を解決するコミュニケーション力を備えた市民の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/regionaladministration.html>

(概要)

地域行政学科は、ローカルなコミュニティの有り様から社会をとらえる視点を重視し、政治・行政への知識を土台に地域社会のニーズを政策に反映させ地域と協働して課題解決を図り、地域社会の発展に貢献する人材の育成を目的として、学生が卒業するまでに身につけるべき能力を、学士課程の学位授与の方針として、以下の通り定めます。

1. 知識と技能

講義やゼミナール、地域体験などでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、広島や日本のさまざまな問題や地域社会の課題を実践的に理解できる基本的知識を収集・整理・理解し、課題解決策を考えることができるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能をもって、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、地域社会の持続的発展の方策を企画・提案・実行することのできる思考力・判断力・実践的なコミュニケーション力等の能力を持つようになること。

3. 多様な人々との協創

多様な立場や価値観を尊重し、主体性をもって、地域社会のさまざまな立場の人々と相互協力し、活力を生み出す知性と良識を身につけること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/regionaladministration.html>

(概要)

1. 基礎から発展へ

政治学と行政学を中心に政策科学的観点を加味し、順序性のある学修を可能にするために、ナンバリング制により主専攻科目を配置します。法学・経済学分野を含め、概論科目を1年次に集中的に配置するほか、地域体験科目の履修を推奨します。地域課題の発見・解決に継続的に関わるため、実践科目を配置します。

2. 視野の拡大

地域課題の多様性を理解するために、法律・経済・国際政治など隣接する学問分野の科目を履修できる学際的なカリキュラムを工夫します。

3. 経験の拡充

地域社会の活性化を担うことのできる実践的な力を養うために、イノベーション関連の科目も設置し、地域体験を実現しやすくするため、4学期制のもと、地域作業をするカリキュラムを構築します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：Web サイト上で公表)

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/regionaladministration.html>

(概要)

1. 求める学生像

地域行政学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、Think Globally, Act Locally を念頭に、ローカルなコミュニティの有り様から社会をとらえる視点を有し、社会が直面する様々な問題を理解し、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すことで、持続可能な社会の担い手になろうとする志向を備えていることを重視します。

地域行政学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における社会・国語・英語の教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、ローカルなコミュニティの有り様から社会をとらえる視点と政治・行政・生活への知識、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能に加え、伝達の内容に関して論理的に思考・判断・表現する際に基礎となる日本語能力および国際的なコミュニケーションを行うための基礎となる英語の知識を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

社会との関連性を意識して社会に関わる出来事や問題に気づく観察力、その出来事・問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって社会に対する幅広い視野を持った意見を説得的に示す表現力を有する人。

(3) 主体性等

多様な価値観を持つ他者に対する包摂力を備え、主体性を持って社会において共感的な人間関係を創造する人。同時に自らの意図を明確に表明し、地域と協働して課題解決を目指し、相互理解を図り、社会の発展に貢献する能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、社会については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り社会を読み解く力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、日本や世界の地域社会に関する様々な本を読むこと、多様な体験を試みることを勧めます。

2. 入学試験制度と評価

地域行政学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。※別表については Web サイト上でご確認ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期 C 日程では、取得した英語資格も加味します。後期

日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、小論文試験等にもとづいて基礎となる知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、面接等にもとづいて、思考力・判断力・表現力および主体性等を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（公募）

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。

学校推薦型選抜（公募）〔英語方式〕では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、主体性等の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校型推薦型選抜（公募）〔課題映像方式〕では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力および主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校推薦型選抜（公募）〔指定資格方式〕では、学力の3要素のうち、知識・技能および主体性等に重点を置き、思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。

<p>学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。</p> <p>(8)帰国生選抜 帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。</p> <p>(9)外国人留学生選抜 志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、および日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、小論文、日本留学試験の成績と面接結果にもとづいて評価・判定します。</p> <p>3. 地域行政学科の教育を通じて養う能力 政治学、行政学、政策学等に関する知識を習得し、地域の価値・魅力に気づく力を伸ばし、社会における課題の発見および解決に取り組むことのできる能力、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を持ち、多様な人々と協働する能力を養います。</p>
--

<p>学部等名 人文学部人間関係学科心理学専攻(2017年度より学生募集停止)</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：刊行物『学修の手引き 2016』で公表)</p>
<p>(概要) 心理学専攻は、「個としての人間」の精神活動に関する科学的研究の意味及びその技術についての教育を行い、人間に関する諸問題に対して心理学的な発想と分析及び解決ができる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：刊行物『学修の手引き 2016』で公表)</p>
<p>(概要) 1. 知識・理解：心理学の知見・方法の歴史的展開と現状、および学術用語について説明することができる。 2. 関心・意欲：心理学全般およびその特定領域に興味・関心を持ち、自ら調べ、考える態度を持つ。 3. 技能：心理学的研究方法、データに対する統計的分析方法、計算機の利用方法、文献の収集法に習熟する。 4. 表現・コミュニケーション：心理学に関する論文（レポート）を作成し、プレゼンテーションを行ない、他者と適切に議論することができる。 5. 思考・判断：心理学における学問上の問題を指摘し、それに対するオリジナルな探究方法を考案し、自律的に実施し解決することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：刊行物『学修の手引き 2016』で公表)</p>
<p>(概要) 1. 心理学全般およびそれを構成する各領域に関する基礎的知識を理解できるように、各専門領域に関するコアとなる講義科目や概論科目を配置する。 2. 心理学を構成する各領域に対して、深い関心と積極的に学修する意欲とを持つことができるように、発展的科目を配置する。 3. 心理学的研究方法、データに対する統計的分析方法、計算機の利用方法、文献の収集法に関連する技能を修得できるように、実習等の科目を配置する。 4. 心理学に関する論文（レポート）を作成し、プレゼンテーションを行ない、他者と適切に議論することができるように、演習等の科目を配置する。 5. 心理学における学問上の問題を指摘し、それに対するオリジナルな探究方法を考案し、自律的に実施し解決することができるように、卒業論文等の科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：刊行物『入試ガイド 2016』で公表)</p>

<p>(概要)</p> <p>1. 人間の心理と行動とに強い関心があり、これらについて科学的方法を用いて探究し理解したいと考えている人。</p> <p>2. 日常の中でデータ（数値）として示されることがらに対して、その意味を理解しようと努める人。</p> <p>3. 自分の考えや意見を適切に表現すると共に、他者の考えや意見を理解し、公平な議論をしようと努める人。</p> <p>4. 日常の様々なことがらの中から問題点を発見し、その解決に向けてオリジナルな探究方法を考案し、自らの力で解決しようとする人。</p>

<p>学部等名 法学部国際政治学科(2018年度より学生募集停止)</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：刊行物『学修の手引き2017』で公表)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際政治学科は、日本と世界のさまざまな問題への理解力を持ち、その解決策を自ら考えることができる、深い教養と良識を備えた市民の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：刊行物『学修の手引き2017』で公表)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際政治学科は、卒業するまでに身につけるべき能力を、学士課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）として以下の通り定めます。</p> <p>1. 日本と世界のさまざまな問題を理解・分析し、その解決策を考える能力を身につける。</p> <p>2. 国際社会や地域社会で活躍するための実践的なコミュニケーションの能力を身につける。</p> <p>3. 国際政治学科における学びを基にして社会で必要とされる問題発見・解決、他者と協働する能力を身につける。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：刊行物『学修の手引き2017』で公表)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際政治学科は、日々変化する国際社会を理解し、国際平和文化都市・広島から世界のあるべき姿を問うために必要な知識や技能を身につけられるよう、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を以下の通り定めます。</p> <p>1. 国際社会のダイナミズムを理解するために、政治・法律・経済・文化などの多様な学問分野を統合した学際的なカリキュラムを配置する。</p> <p>2. 国際政治学科が扱う多岐にわたる領域を整理し、重点領域をわかりやすくするために、国際関係研究専修コース、平和学・地域研究専修コース、政治学・政策研究専修コースの専修コースを設置する。</p> <p>3. 国際政治学・政治学に関する知識を育みながら、英語科目を集中的に学修し、読むだけでなく、話す力、聴く力、書く力といった実践的な英語の能力を伸ばし、国際社会で使われる生きた英語を修得するために、特別コースとして英語インテンシブコースを設置する。</p> <p>4. 日本と世界のさまざまな問題を理解し、その解決策を考え、発表することを目的とした演習科目を2，3，4年次配当科目として配置する。</p> <p>5. 国際社会や地域社会で活躍するための実践的な力を養うためにインターンシップ科目を置き、海外セミナーや留学によって修得した単位を認定する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：刊行物『入試ガイド2017』で公表)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際政治学科は、日本と世界のさまざまな問題への理解力を持ち、その解決策を自ら考えることができる、深い教養と良識を備えた社会人となることのできる可能性を持った人を</p>

受け入れるため、学生受け入れの方針を以下の通り定めます。

1. 入学者に求める能力

国際政治学科は、高等学校卒業程度の学力を有し、本学で学ぶ意欲を持つ次のような人を広く国内外から受け入れます。①国際社会や地域社会の出来事や問題に関心がある人、②国際社会や地域社会で、文化や生活環境の壁を乗り越え活躍しようとする人、③社会に対する広い視野を持って自分の目的を実現するために自発的・意欲的に学び、努力する人、④日本と世界のさまざまな問題についてみずから調べ、考え、意見を発信しようとする人。

2. 入学試験制度と評価

(1)一般入試では主に入学後の学修に必要な基礎学力を有している者を選抜し、個別学力検査、調査書の内容、資格・検定等の成績（一部の日程のみ）を加味して総合的に評価します。

(2)大学入試センター試験利用入試では、主に入学後の学修に必要な基礎学力を有している者を選抜し、大学入試センター試験の成績結果と調査書の内容によって総合的に判定します。

(3)一般・センター併用入学試験では、主に入学後の学修に必要な基礎学力を有している者を選抜し、一般入試（前期日程）と大学入試センター試験の成績結果と調査書の内容によって総合的に判定します。

(4)AO インターアクション入試では、本学への入学を強く希望し、高等学校等における正課活動および課外活動に積極的に取り組み、本学法学部国際政治学科で学ぶことの意義について明確な興味関心を持った者を選抜します。選抜においては、出身学校調査書、志望理由書、個別学力検査、面接等をもとにして、能力、意欲、適性等を多面的総合的に評価します。個別学力検査では、課題図書に関する小論文を実施します。

(5)公募推薦入試では、本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、高等学校等における正課活動および課外活動、指定資格に積極的に取り組み、本学法学部国際政治学科で学ぶことの意義について明確な興味関心を持った者を選抜します。選抜においては、出身学校調査書（一定の評定平均値を満たす必要があります）、志望理由書、面接、資格に関する証明書、個別学力検査等をもとにして、能力、意欲、適性等を多面的総合的に評価します。個別学力検査では、英語、課題映像に関する小論文を実施します。

(6)指定校推薦入試、附属校推薦入試では、本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、高等学校における正課活動および課外活動に積極的に取り組み、本学法学部国際政治学科で学ぶことの意義について明確な興味関心を持った者を選抜します。選抜においては、出身学校調査書（一定の評定平均値を満たす必要があります）、志望理由書、面接等をもとにして、能力、意欲、適性等を多面的総合的に評価します。

(7)帰国生入試は、AO インターアクション入試として実施します。

(8)外国人留学生入試では、主に入学後の学修に必要な基礎学力を有している者を選抜します。選抜においては、個別学力検査、面接、出願書類、日本留学試験のスコア等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的総合的に評価します。個別学力検査では、資料小論文等を実施します。

(9)編入学入試、学士入試では、第3学年次に編入するために必要な基礎学力を有している者を選抜します。選抜においては、成績証明書、志望理由書、個別学力検査、面接等をもとにして、能力、意欲、適性等を多面的総合的に評価します。個別学力検査では、英語、論述（時事問題）等を実施します。

3. 国際政治学科の教育を通じて養う能力

国際政治学科の教育目標を実現するために必要な国際政治学的知識と技能を習得し、国際政治学的課題の発見および解決に取り組み、その成果を表現するために必要な国際政治学的思考力・判断力・表現力等の能力を持ち、多様な人々と協創して学びあう能力を養います。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
商学部	—	22人	9人	2人	1人	人	34人
人文学部	—	30人	4人	1人	2人	人	37人
法学部	—	12人	5人	1人	5人	人	23人
経済科学部	—	19人	9人	3人	人	人	31人
人間環境学部	—	10人	4人	1人	2人	人	17人
健康科学部	—	21人	1人	1人	2人	2人	27人
国際コミュニティ学部	—	15人	4人	1人	1人	人	21人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		356人					356人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：教員一覧・教員データベースにて公表 (https://www.shudo-u.ac.jp/research/kyouindb.html)						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
2021年度実績							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート（学生による授業評価）を年2回実施。 ・学部・学科単位での公開授業実施。（参観した教職員からアドバイスシートによって意見聴取を行い、実施教員及び参観教員の授業改善の参考としている。） ・各学部、研究科ごとにFD推進委員会開催。 ・全学対象FD・SD研修会を2回開催。（その他に学部・学科・専攻単位での研究会や講演会も開催。） ・各学部、研究科単位でFD研修会を開催。 ・教員評価の自己評価項目に教育意識の高揚を図るため、授業改善に関する項目を設けている。 ・FD・SDニューズレターの発行。 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
商学部	295人	324人	109.8%	1,180人	1,318人	111.7%	0人	0人
人文学部	270人	283人	104.8%	1,080人	1,144人	105.9%	0人	0人
法学部	195人	198人	101.5%	780人	883人	113.2%	0人	1人
経済科学部	230人	257人	111.7%	920人	1,016人	110.4%	0人	0人
人間環境学部	115人	125人	108.7%	460人	514人	111.7%	0人	0人
健康科学部	160人	183人	114.4%	640人	687人	107.3%	0人	0人
国際コミュニ ティ学部	150人	164人	109.3%	600人	657人	109.5%	0人	0人
合計	1,415人	1,534人	108.4%	5,660人	6,219人	109.9%	0人	1人
(備考) 編入学については、学生数に欠員があるときに認める。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
商学部	301人 (100%)	0人 (0.0%)	262人 (87.0%)	39人 (13.0%)
人文学部	311人 (100%)	9人 (2.9%)	266人 (85.5%)	36人 (11.6%)
法学部	223人 (100%)	5人 (2.2%)	184人 (82.5%)	34人 (15.2%)
経済科学部	227人 (100%)	1人 (0.4%)	194人 (85.5%)	32人 (14.1%)
人間環境学部	100人 (100%)	3人 (3.0%)	93人 (93.0%)	4人 (4.0%)
健康科学部	159人 (100%)	10人 (6.3%)	137人 (86.2%)	12人 (7.5%)
国際コミュニケーション学部	132人 (100%)	3人 (2.3%)	119人 (90.2%)	10人 (7.6%)
合計	1,453人 (100%)	31人 (2.1%)	1,255人 (86.4%)	167人 (11.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (主な進学先) 広島修道大学大学院、広島大学大学院、岡山大学法科大学院など (主な就職先) 鹿島建設、中国電力、モルテン、NTT データ中国、東京海上日動火災保険、国家一般職、広島市I種行政、広島市I種消防など				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
商学部	336人 (100%)	275人 (81.8%)	40人 (11.9%)	20人 (6.0%)	0人 (0%)
人文学部	325人 (100%)	293人 (90.2%)	24人 (7.4%)	8人 (2.5%)	0人 (0%)
法学部	222人 (100%)	190人 (85.6%)	17人 (7.7%)	15人 (6.8%)	0人 (0%)
経済科学部	236人 (100%)	202人 (85.6%)	19人 (8.1%)	15人 (6.4%)	0人 (0%)
人間環境学部	116人 (100%)	88人 (75.9%)	18人 (15.5%)	11人 (9.5%)	0人 (0%)
健康科学部	171人 (100%)	153人 (89.5%)	14人 (8.2%)	4人 (2.3%)	0人 (0%)
国際コミュニケーション学部	167人 (100%)	132人 (79.0%)	22人 (13.2%)	13人 (7.8%)	0人 (0%)
合計	1,573人 (100%)	1,333人 (84.7%)	154人 (9.8%)	86人 (5.5%)	0人 (0%)
(備考) 中途退学者の主たる要因は経済的な事情や進路変更等である。 人間環境学部から商学部へ1名転部した学生がいたため、該当学生数分、転部元の学部において入学者数を減らして転部先の学部において入学者数を増やしている。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

本学では、開講する全ての科目について、担当教員にシラバスの作成を義務付けている。シラバスの作成方法や記載する事項を示した文書に、記載見本を付けて、担当教員に配付している。

記載必須事項は、授業題目、授業の概要、学修の到達目標、授業計画（授業回数分すべてを記載）、授業外学習の課題、履修上の注意事項、成績評価の方法・基準、オフィスアワー及び質問・相談への対応である。また、テキストや参考文献は任意記載事項であるが、少なくともどちらか一方を記載するようにしている。実務経験のある教員による授業科目については、授業の概要において授業に関連する実務経験を記載している。

なお、シラバスの記載内容のチェックを各学部等において実施している。

シラバスは Web サイト上で公表しており、次年度のシラバスは毎年 3 月下旬の公表である。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
 学修の評価は、AA、A、B、C、Dの5段階で行い、Dを不合格とすることを学則で定めている。評価の基準は、100～90点：AA、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：Dである。
 毎学期の終了後に1週間程度の期間を設けて定期試験を実施し、その結果に基づいた成績評価及び単位認定を実施している。定期試験以外の成績評価方法として、レポート、課題提出、授業での取り組みなどがあり、成績評価方法に基づき単位認定を実施している。全ての科目において成績評価方法をシラバスに明記し、学生に周知している。
 なお、単位認定方法や成績評価基準については、成績発表ガイダンスでも学生に説明している。
 大学全体の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、学部・学科ごとに特色を反映した学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育研究上の目的や特色・ねらい、卒業要件について『学修の手引き』に記載し周知を図っている。
 卒業認定にあたっては、卒業の要件を学則及び学部ごとの履修細則で定め、修得単位及び在学期間に基づき教授会で卒業判定を実施し卒業認定者を発表している。

学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上 限 (任意記載事項)
商学部	商学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
	経営学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
人文学部	人間関係学科 (心理学専攻は 2017年度学生募集 停止)	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
	教育学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
	英語英文学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
法学部	法律学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
	国際政治学科 (2018年度学生募 集停止)	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
経済科学部	現代経済学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
	経済情報学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
人間環境学部	人間環境学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
健康科学部	心理学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
	健康栄養学科	1 2 4 単位	有・無	4 6 単位
国際コミュニ ティ学部	国際政治学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
	地域行政学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法:Webサイト上で公表 (PDFデータの8~9枚目) https://www.shudo-u.ac.jp/lifesupport/htpcot0000000csr- att/htpcot00000050ab.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：Web サイト上で公表 <https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/facility.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
商学部 *1	商学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	経営学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
人文学部	人間関係学科 (心理学専攻) *2	798,000 円	—	220,000 円	その他：施設設備資金
	人間関係学科 (社会学専攻) *1	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	教育学科 *1	810,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	英語英文学科 *1	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
法学部	法律学科 *1	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	国際政治学科 *3	780,000 円	—	220,000 円	その他：施設設備資金
経済科学部 *1	現代経済学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	経済情報学科	810,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
人間環境学部 *1	人間環境学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
健康科学部 *4	心理学科	820,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	健康栄養学科	900,000 円	220,000 円	220,000 円	
国際コミュニテイ 学部 *5	国際政治学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	地域行政学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	

*1 2016 年度以降に入学した学生

*2 2016 年度に入学した学生のみ (2017 年度より学生募集停止)

*3 2016・2017 年度に入学した学生のみ (2018 年度より学生募集停止)

*4 2017 年度以降に入学した学生のみ (2017 年度開設)

*5 2018 年度以降に入学した学生のみ (2018 年度開設)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

修学上の問題などを相談できる身近な存在となるチューターを配置している。1・2年次生は所属学部・学科の専任教員が、3・4年次生はゼミナール指導教員がチューターとなることを基本としている。学生生活のすべてにわたって良きアドバイザーとなり、よりよい学生生活を実現させることを目的としている。

また、学習支援体制として、学習支援センターを設置し、3名の学習アドバイザーがレポートやレジュメの書き方、プレゼンテーション、英語の学習等について個別に相談・質問に応じており、2021年度は新型コロナウイルス感染症への対応で、対面・非対面（Zoom、メール、電話など）の両方で実施し、約850名の学生が利用している。また、学習支援センター主催の試験準備やレポート作成、英語多読、TOEIC等に関するワークショップ・講座についても、対面・非対面で年間23種27回実施し、延べ200名以上の学生が参加した。

学習支援センターではその他、総合型選抜、学校推薦型選抜（公募（専願）・指定校・附属校（専願））の合格者を対象に、キャンパス学習と通信・課題学習の二つを軸とした入学準備学習プログラムを実施している。特に通信・課題学習では、各学科独自の課題（読書、レポート等）に加え、学習支援センターから日本語・英語に関するオリジナルのワークブックとその取組状況を記す「ふりかえりシート」を課し、入学までに2度提出させる。「ふりかえりシート」は、本人の記述に対して学習アドバイザーが手書きのコメントやアドバイスを付し返送することで、学習行動や取組姿勢について考え改善することを促す。

入学後の支援では、1年次前期末成績にて単位僅少指導対象となった学生にフォローアップ面談を行い、当該学生自身の振り返りを促し、必要に応じて学習支援を行う。その後、2年次前期終了までに再度面談し、1年次学年末成績や現在の学習状況について確認する。また、1年次学年末成績にて新たに単位僅少指導対象となった学生にも同様にフォローアップ面談を実施する。学生によっては、学習状況や生活パターンの改善を促し、学習支援を行うことで主体的学習者へと導くことを主な目的とする。

奨学金については、日本学生支援機構や地方公共団体などの奨学金制度に加え、本学独自の奨学金制度を設け、経済的理由により修学が困難な学生や、家計の急変によって学業の継続が困難になった学生などを対象に、奨学金の貸与・給付を実施しており、毎年多くの学生が利用し学業の継続を実現している。また、優秀な成果を収めた学生を支援する奨学金や成長する学生を支援する奨学金の制度も設けている。

また、「在学生スカラシップ」、「資格取得スカラシップ」、「課外活動スカラシップ」、「国際交流スカラシップ」など、学術・芸術・社会・教育・文化活動等の分野において、模範となる成績もしくは貢献をした学生・団体を表彰する学長表彰制度も設けている。
(<https://www.shudo-u.ac.jp/lifesupport/scholarship/index.html>)

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

本学の進路支援の特徴は、人生における進路選択は、単なる就職だけにとどまらないものと位置づけている点である。この意味において、低学年次から学年進行に応じた“キャリア支援”をベースにした支援の先に“就職支援”を位置づけ、キャリアセンターが中心となり双方の支援を展開している。

具体的なキャリア教育支援については、キャリア教育科目を展開している。入学直後に全学生が受験する「PROGテスト（＝ジェネリックスキル測定テスト）」の測定結果を利用し、1年次生科目の「修大基礎講座」において、社会で求められる汎用的な能力・態度・志向について解説し、自らの現時点での問題解決能力、経験から身についた行動特性を知る。ちなみに「PROG」は学年進行やインターンシップ等参加による成長度を認識するために2・3年次生でも受験が可能である。

2年次科目の「大学生活とキャリア形成」では、変化の激しい21世紀社会を生き抜いていくためには、卒業後の人生観、労働観、職業観といった将来にわたるキャリア・ヴィジョン、キャリア・デザインを描くことの重要性、学生生活のあらゆる経験、場面がキャリア（人生）形成の場面であることを説く。

両科目に共通することは、ワークキャリア（働くこと）に捉われない、ライフキャリア（人生）に焦点を当て、自己効力感の涵養を目指していることである。

この他にも、2年次～4年次生配当として、広島県の企業における後継者不足の問題にスポットを当てた「広島の事業承継を学ぶ」を開講している。誰しものが将来の生き方の選択肢において「事業承継」の機会があることや「経営者としてのキャリア」を考える機会とすることを目的としている。また、就業体験を通じ将来の進路選択の一助となるよう、「長期インターンシップ（1～2ヵ月）」及び「事前・事後指導」科目の展開、キャリア支援講座、インターンシップ参加者全員へのフォローアップ面接、地元広島県内企業をバスで巡る企業見学バスツアー等を展開している。

就職支援については、個別フォロー（個別相談、エントリーシート相談・添削、模擬面接等）をはじめ、年9回シリーズの就職ガイダンス、マナー講座、キャリアセンター活用ガイダンス、集団討論対策、留学生・大学院生向け就職ガイダンス、筆記試験対策講座、公務員試験対策講座（公務員試験等学習室設置）、低学年次からのSPI対策としての数学セミナー等々コロナ禍の状況を勘案しながら対面・オンデマンド・オンライン式を併用し、支援を展開している。また、就職活動にかかる交通費の一部補助も行なっている。

その他にも、学内合同企業説明会（年間4回、延べ約650社：オンライン・対面併用）の開催、地元経済界（広島経済同友会、広島県中小企業家同友会等）の協力を得ての経営者と語る会、ワークショップ、広島県内及び中四国地域の自治体との連携セミナー、各業界で活躍する本学卒業生を招いてのイベント等々、学外の協力を得ての支援も展開している。

学生一人ひとりが自立・自律し、卒業後の人生における夢の実現を可能とすることを教職協働体制で絶えずサポートしている。このことが「地域社会の発展に貢献する有為な人材を育成する」本学の開学以来の一貫したスタンスであり、同時にキャリアセンターのスタンスでもある。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

保健室では休養室を設置し、看護師の専任2名と臨時職員1名が応急処置や健康相談、障がい者の生活支援などに対応している。また非常勤内科医4名、婦人科女医1名をおき定期的な健康相談日と、管理栄養士による栄養相談日の開設、定期健康診断および健診事後措置として、血圧計や体成分分析装置(InBody)などの測定機器を用いて健康指導を行っている。また感染症予防をはじめ健康講座や禁煙支援など健康教育を実施予定である。感染予防措置としては、学内活動指針のレベルに応じて入室制限を設け、体調不良者の休養や、帰宅までの待機場所として第2休養室を設けている。正課中や課外活動中、通学中など大学管理下とみなされる状況で発生したケガの治療費を給付する制度を設けており、給付申請の対応窓口となっている。

学生相談室では、専従の臨床心理士2名の他に、非常勤の精神科医1名と臨床心理士3名を配置し、心身のケアが必要な学生に対しカウンセリングを中心とした支援を行っている。また、学生対応に当たる教職員に対してコンサルテーションを行ったり、学生対応に関する研修機会を提供している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：Webサイト上で公表 <https://www.shudo-u.ac.jp/kouhyou/index.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F134310109866
学校名	広島修道大学
設置者名	学校法人 修道学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		564人	540人	-
内 訳	第Ⅰ区分	298人	324人	
	第Ⅱ区分	167人	141人	
	第Ⅲ区分	99人	75人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				593人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	32人		
計	43人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
G P A等が下位4分の1	54人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	54人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。